

伊沢小学校
「学力向上実行プラン」

学校図書館とつながり、学びを広げる児童の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現～

学力向上推進員 須見昇司
委員 校長 佐藤信之・ 教頭 鶴本正道・ 十川典久(教務主任)
岩佐 美恵子(研修主任) 岡田仁美(学力向上推進講師)

伊沢小学校長

佐藤信之



◎◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎・基本的な知識・技能をほとんどの児童が身につけている。 ○GIGA端末の基本的な操作に慣れてきている児童が大部分である。 ●漢字の読み書きや語彙が十分でない子がいる。	①基礎・基本的な知識・技能をより確実に身につけることができる。 ②漢字や語彙の定着を図り、日常の中で使うことができる。 ③GIGA端末の基本的な操作を身につけ、自分に必要なプレゼンやまとめ等を作成したり、調べたりできる。	①既習計算と漢字と漢字の復習小テストを繰り返し行う。 ②各教室に読書スペースを設け、読書に興味・関心をもたせる。低学年は、読書を通して、文字・言葉に親しみ、中・高学年は各学級に常備した国語辞典を活用し語彙を広げる。 ③一人一端末等を各教科で効果的に活用する。 ④GIGA端末等で個に応じたワークシートや課題を与え支援をする。	②国語辞典を身近に置き積極的に活用できるようにする。読書をすきま時間に行う。	①漢字・計算などの既習事項を繰り返し小テストは継続したため、漢字や計算の力がついてきた。高学年は、大型モニターを導入しているため、児童の理解度を高めた。教科における基礎・基本が少しずつ定着してきた。 ②国語辞典や新聞の活用を行うことで、語彙が増えてきた。 ③GIGA端末を各教科で活用し、児童の知識・理解が向上しつつある。体育科で追っかけ再生を活用し、児童のやる気高め、技が向上した。	○国語辞典を日常的に活用する機会(回数等)をより増やす。 ○ICT・デジタル教材のより効果的な活用を図る。特にGIGA端末やノートなどに自分の意見を表現し、考えを深める指導方法の改善を図る。(低学年にも大型モニター導入予定) ○各教室に読書を用意し、教職員によるブックリストにより、読書に興味・関心を持たせる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まった話形に沿って、自分の考えを表現できる児童が多い。 ●問題解決の過程で、知識や技能を生かして、数学的な見方考え方を働かせることが苦手である。 ●読むことができるが、条件に従って文章を書ける子が少ない。	①目的に応じて、必要な情報を集め、自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりすることができる。 ②文章の要旨を伝えたり、問いの意図を正しく理解したりすることができる。	①個別やグループでのMetaMojiを活用した学習を積極的に取り入れ発表する機会を増やす。 ②新聞等を活用し、読み取り問題に取り組み、考えたこと等を伝え合う場を設ける。 ③視覚的な理解を図り、時間を区切つての活動で学習活動のスピードアップを図る。 ④個人の端末からクラウドで使える音楽・英語のデジタル教科書を効果的に活用する。 ⑤課題にあった情報を選ぶ活動を取り入れる。	①対話的な学びの機会を増やして学びを広げ深める。 ②授業のなかで要約する機会を多く取り入れる。	①個別やグループでMetaMojiを活用した学習を積極的に取り入れその振り返りの場を設け、自分の学びを確かめることで興味・関心を高めた。国語では、字数を決め要約する機会を十分に設けることができなかった。 ②思考力・表現力は、十分ではない。特に文章を書く力には課題がある児童がいる。	○発言しやすい場の設定や雰囲気作りをする。自分の考えを説明し、話し合う場を設ける。 ○さらにブックリストを充実させ、読む本の質・量をレベルアップする。情報活用の能力の育成にさらに取り組む。 ○課題(百ます計算等)をこなすスピードのUPを図る。(聞く、読む、書く) ○国語で、字数を決め要約する機会を十分に設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教え合い、助け合うことができる児童が多い。 ○家庭学習の習慣がついている児童が多い。 ●学習規律が身につけていない児童がいる。 ●難しい問題に最後まで取り組むことや、疑問に思ったことを自ら調べようとする児童が増えてきているがまだ十分ではない。 ●一斉指導の中で聞いて課題に取り組める児童が減ってきている。	①自分の思いや考えを進んで発表することができる。 ②自らの課題に根気強く取り組むことができる。 ③目的を持って、自分の力で学習を進めることができる。 ④目的に合った本を選び、本に親しんだり情報を集めたりできる。 ⑤学習規律の統一を図る	①話の聞き方や発表の仕方を教室に掲示する。 ②授業の仕方や内容の工夫、ICTの活用などで学習の意欲を高める。 ③振り返りの場の設け方を工夫する。 ④ポジティブな行動支援をさらに進める。 ⑤学校図書館の環境整備を行い読書の生活化を進める。 ⑥教科の単元により、作成されているパスファインダーを使い、調べ活動を充実させる。 ⑦ノーメディアデイを設けて、生活習慣を整える。	①学習規律の徹底をはかり自己評価をする。(特に聞き方) ⑤学級で本を紹介する機会を設ける。阿波図書館との連携を深める。	①新聞を読んで感想を書く活動により、自分の思いや考えを表現できるようになってきた。 ②自分の課題にあきらめずに取り組む姿勢が2極化している。 ③目的を持って、自分の力で学習を進めることができる児童が増えてきている。 ④図書室では、リクエスト等もとに読んで欲しい本を集め、新刊コーナーを充実させたり、クラスでは、国語の教科書の図書の紹介をしたので読書量が増えた。	○家庭と教職員間で連携し、学習規律の統一を図り、その徹底に取り組む。(特に聞き方) ○読書の生活化を図る。 ○ポジティブな行動支援をより進めていく。 ○ノーメディアDAYを続けて、家庭学習の時間の確保を進めていく。 ○自分の思いや考えを発表できる機会を増やす。 ○ICTを活用して課題に根気よく取り組めるようにする。

令和4

